



# 確かな学力の向上をめざして【6月】

## 小学校と中学校の連携に向けて ～英語教育を例に～

今年度から中学校の教科書が新しくなりました。下の図は、中学校の初めて出てくるページの一部です。小学校の先生はこれを見てどんなことに気づきますか？また中学校の先生は、この中にどれだけ小学校で学習した表現が含まれているか予想してみてください。

4月に行った小学校英語専科教員連絡協議会では、参加者に小学校と中学校の教科書全体を見比べて、共通点や相違点等を考えていただきました。先生方の気づきを一部紹介します。

この英文、小学校と似てる！

小学校



中学校では fan of... っていう言い方するんだ。

右の英文を見て...

中学校でも同じような活動をするよと伝えておくといいな。

小学校でやったことを振り返る時間がたっぷりあってあるんだなあ。

小学校でアルファベットを書けるようにしておかないといけないな！

★ミラー先生の自己紹介を聞いて、それぞれの内容に合うものを選びましょう。

1. 出身地: I'm from ( ).  
 a the U.K.  b the U.S.  c Canada
2. 性格: I'm ( ).  
 a active  b funny  c quiet
3. 得意な科目: I'm good at ( ).  
 a math  b P.E.  c music
4. 好きなもの: I'm a fan of ( ).  
 a soccer  b basketball  c baseball

出典：Sunshine English Course1（開隆堂）



教科書全体を見て...

それぞれの単元がどんなゴールに向かっているのかな？

中学校とのつながりを感じられる授業づくりをしたいな。

小中連携



中学校

中学校に入ってから急にハードルが上がらないようにしないと。



小学校の内容を関連させて授業の導入をしてみようかな。



### Point

★外国語に限らず、どの教科でも小中の教科書を見て、学習内容がどうつながっているか考えてみましょう。

★小学校の先生は、どんな力を育成することが必要か、中学校の先生は小学校の学びを引き継ぐためにどんな工夫ができるか考えてみましょう。



校区の学校で連携するといいね！

# 子どもたちの小さな変化を見逃さない！未然防止の第一歩！

新学期が始まり、約2か月が経ちます。新たな環境での生活がスタートし、多くの子どもたちが期待と希望に胸を膨らませる一方で、緊張や不安、そして徐々に疲れを感じ始めるこの時期だからこそ、私たち教職員一人ひとりの温かなまなざしが、子どもたちの健やかな成長を支える上で何よりも大切になります。特に、6月は中部地区において、不登校児童生徒数やいじめ、問題行動等の件数が増える傾向があります。友達関係や表情などの日常生活の中で子どもたちの発する小さな変化やサインにいち早く気付くことが、いじめや問題行動、不登校等の未然防止への第一歩となります。

表情や行動に注目してみよう！

<p><b>心身の不調</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻や欠席が増える</li> <li>・食欲がない、体調不良（頭痛や腹痛など）の訴えがある</li> <li>・表情が暗い、元気がない</li> <li>・イライラしている</li> </ul>	
<p><b>行動の変化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段よりも口数が減る、普段よりもよくしゃべる</li> <li>・友達との関わりを避ける（一人で過ごすことが増える）</li> <li>・ネガティブな発言が増える</li> <li>・落ち着きがない、そわそわしている</li> <li>・これまでできていたことができなくなる</li> <li>・物を粗末に扱うようになる</li> </ul>	
<p><b>学習面の変化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出遅れや、未提出がある</li> <li>・授業中の集中力が低下する（ぼんやりしている時間が増える）</li> <li>・学習の準備がそろわない</li> <li>・忘れ物が増える</li> <li>・ノートの字が乱雑になる</li> </ul>	

これらの変化は、子どもたちが何らかの困難を抱えているサインかもしれません。



Point

「もしかして？」と思った時は...



## □まずは、声をかけてみましょう！

- ・子どもが心の内にあるものを語れるよう、「何かあった？」「元気がないみたいだけど、どうした？」など、子どもの気持ちに寄り添って、ゆっくり話を聞きましょう。
- ・すぐに答えが返ってこなくても、じっくりと耳を傾けて、子どもが「話してもいいんだ」と思えるような安心できる雰囲気をつくりましょう。

## □情報を共有し、子どもを多角的に理解しましょう！

- ・一人で抱え込まず、まずは担任の先生、学年や教科の先生、スクールカウンセラーなど身近にいる人に、「〇〇さんのことが気になる」と相談してみましょう。
- ・それぞれの教員や専門職がもつ視点や情報を合わせることで、子どもの状況を多角的に理解し、個々にあった適切な支援へとつなげることができます。